

問1 弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したものと最も適切なものはどれか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。
2. 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。
3. 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。
4. 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。

問2 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

1. 青銅器
2. 鉄器
3. 埴輪
4. 磨製石器

問3 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。（2026年 新潟公立入試 類似）

1. 銅鐸
2. 銅鏡
3. 銅剣
4. 石包丁

問4 弥生時代における金属器の使用について、青銅器と鉄器の使い分けに関する説明として最も適切なものはどれか。（2022年 島根公立入試 類似）

1. 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実的に用いられた
2. 青銅器は主に調理や貯蔵の容器として用いられ、鉄器は祭礼の装飾品として用いられた
3. 青銅器は大陸との交易における貨幣として用いられ、鉄器は建築用の釘として用いられた
4. 青銅器は一部の特権階級の家財として用いられ、鉄器は庶民の狩猟道具として広く普及した

問5 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した
2. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた
3. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した
4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した

問6 古代の倭（日本）の王や諸国の首長が、中国の皇帝へ貢物を送った「朝貢外交」の主な目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため
2. 中国の王朝を軍事的に支配下に置き、その領土を大陸側へ広げるための足がかりにするため
3. 中国にある高度な仏教建築の技術を独占的に導入し、日本国内に巨大な寺院を建立するため
4. 中国大陸での戦乱を鎮めるために、日本の強力な軍力を提供して外交上の恩を売るため

問7 福岡県の志賀島で発見された、「漢委奴国王」と刻まれた金印に関する記述として、当時の外交関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎公立入試 類似）

1. 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。
2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号とともに授けられたものである。
3. 聖徳太子が小野妹子を派遣した際、隋の皇帝から対等な外交の証として贈られたものである。
4. 室町幕府の足利義満が、明の皇帝から日本国王として認められた際に授かったものである。

問8 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 愛知公立入試 類似）

1. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため
2. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため
3. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため
4. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため

問9 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器のうち、銅とスズの合金で作られ、主に豊作を祈るなどの祭祀（祭り）の儀式に用いられた道具の総称を何というか。（2022年 島根公立入試 類似）

1. 青銅器
2. 鉄器
3. 土器
4. 打製石器

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭りに深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問2	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問3	答え 1 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問4	答え 1 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた	弥生時代の大きな特徴は、青銅器と鉄器という性質の異なる二つの金属器が並行して使われていた点にあります。青銅器は脆（もろ）いため、主に祭りや儀式を司るための祭礼具として発展しました。一方、鉄器は硬くて鋭いため、木製農具を加工するための工具や、実際の武器、耕作のための農具として実利的な目的で活用されました。
問5	答え 1 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問6	答え 1 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため	古代の東アジアでは、中国の皇帝を中心とした国際秩序が形成されていました。倭の王たちは、圧倒的な力を持つ中国の皇帝に貢物を送り（朝貢）、臣下としての称号を受けることで、自分が正当な支配者であることを国内外に示す材料としました。
問7	答え 1 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。	この金印は、1世紀（紀元57年）に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送った際、光武帝から授けられたものです。中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、この出来事に関する記述があり、江戸時代に福岡県の志賀島で金印が実際に発見されたことで、当時の日本と中国の間に公的な外交関係があったことが証明されました。
問8	答え 1 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。
問9	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実的な道具というよりも、村の祭りや儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。